

入賞者90人が決定

問い合わせは 文化国際課 3808-5825

「第14回詩のまち前橋若い芽のポエム」の選考委員会が行われ、2万1,056編の応募の中から入賞者作品が決まりました。ここでは、小学生、中学生、高校生の3部門で最優秀賞の美棹賞を受賞した作品と入賞者を紹介。なお、賞の贈呈式と朗読会は、11月13日(土)に前橋テルサで行います。

贈呈式と朗読会



昨年の贈呈式

入賞者への贈呈式と入賞作品の朗読会を前橋テルサで開催します。

- 贈呈式
日時=11月13日(土)午後1時~1時40分
- 朗読会
日時=11月13日(土)午後1時50分
内容=入賞者と選考委員・推薦委員の詩人による詩の朗読

■全国・海外からの応募

「詩のまち前橋若い芽のポエム」は、全国の小学生から高校生を対象にした詩のコンクール。本県を含め18都府県から、また、海外のタイからも応募があり、全体的な作品のレベルはさらに向上しました。

入賞作品の選考に当たり、まず推薦委員の予備選考で推薦作品を決定。その後、選考委員の本選考で入賞作品を決定しました。

■入賞者は90人

入賞作品は、3部門で90編。各部門の入賞者は次のとおりです。

●小学生の部

美棹賞 安田彬敏(東京都千

代田区立番町小6年)

銀賞 廣瀬綾音(原小1年)

銅賞 栗原翔子(粕川小2年)

佳作 12人

入選 35人

●中学生の部

銀賞 林真美(箱田中1年)

銅賞 海老沼明希(五中3年)

佳作 7人

入選 20人

●高校生の部

美棹賞 木暮峻広(市立前橋

高2年)

銀賞 小泉遥(市立前橋高2

年)

銅賞 乾勇氣(高崎商科大附

属高2年)

佳作 2人

入選 5人

■菊田委員長の講評(要旨)

●小学生の部
学校や家庭など身近なものを題材としたものや、自然を題材とした詩が多く、その中でも生き物の詩が子どもの素直な感性を通して書かれているのがとても印象的でした。

●中学生の部
自分を見つめ生きることを考えたものや部活動などの詩が多く、全体的に素晴らしい感性で書かれ、入賞作品以外でも光るものがありました。

●高校生の部
小中学生の感性の詩に対し、抽象的な知性によるものが多く、表現の技法に優れている作品が多いと感じました。

各部門の美棹賞



小学生の部
安田 彬敏さん
東京都千代田区立
番町小6年

人類と自然の間には

人類は
いろんなものをよくつくり
ととう翼も手に入れた
しかし本当にそうなのか

人類は
あらゆるものを手に入れるため
空を汚し
海や川や大地を汚していった

今もどこかで破壊が続き
誰かがどこかで泣き続けている

でも
破壊の材料は自然のものでできている
鉄も石油も自然のものでできている
プラスチックも火薬も原料は自然のものだ
自然は人のためにある訳ではない
核兵器に使われるウランは
破壊のためにこの世にある訳ではない

破壊を始める前に
人類はそれを考えた事があるのか
北も南も東も西もない
資本主義も社会主義もない
黒も白もない

六十八億人は結集し
自然を守らなければいけない
この美しい惑星
地球を救わなければいけない



高校生の部
木暮 峻広さん
市立前橋高2年

時間

それは川だ

決して戻ることは無く

流れるままに流されて

気がつけば今という流域にいる

それは風だ

非力な一枚の葉のように

吹かれるままに飛ばされて

気がつけば今という地にたたずんでいる

ついでついでであんなに近かった山が

ついでついでまで居座っていた大木が

こんなに小さく見えている

どうしてこんなに速いのか

どうしてこんなに力強いのか

時の流れというものは